

<プロフィール>

高山千代美/ソプラノ

1960年宮崎市生まれ。筑波大学情報学類在学中より音楽を学ぶ。数学科教諭・第一勧銀システム開発を経て、1991年よりコンサート活動や合唱指導を開始。2001年9.11事件をきっかけに、溢れる平和への思いがメロディーとなり、作詞・作曲を始める。現在は、音楽を通して安らぎや喜びを分かち合いたいとコンサート活動を行っている。オリジナルCD「母を想う時」「21世紀の子どもたちへ」「虹の輪」「Jatsering~永遠の命~」「スマイル・スマイル」「父娘」「いのちの子守唄」「風よ空よ」「いっチャが音頭」を発表、世界各国で配信。2025年「神々の物語~大祓詞より~」を制作。MRTテレビ&ラジオ、サンシャインFM、FM立川などにゲスト出演。

佐藤明子/メゾ・ソプラノ

東京藝術大学声楽科卒業。藝大在学中、中村浩子氏に師事しフランス歌曲の研鑽を積む。1990~91年ミュンヘン留学。アダルベルト・クラウス氏に師事。帰国後は宗教曲のソリストや第九のソリストを務める。また、フランス歌曲をはじめ日本歌曲や様々なコンサートに出演している。現在、常盤木学園高校非常勤講師。オルガンとカンタータの会、仙台シューマン協会、各会員。



佐藤淳一/テノール

東京藝術大学声楽科卒業。同大学院修士課程修了。1990~91年ミュンヘンにてアダルベルト・クラウス氏に師事。ドイツより帰国後は宗教曲のスペシャリストとして活動を続け、現在までに様々な宗教曲のソリストを務め好評を博して来た。また1992年より仙台オペラ協会のメンバーとなり、本公演ではテノールの主要キャストを歌っている。現在は合唱指揮者として女声・男声・混声合唱団の指揮・指導も行っている。学生時代にはクロスロードシンガーズのコンサートマスターとして多くのコンサートに出演。現在、尚綱学院大学子ども学類教授。仙台宗教音楽研究会（オルガンとカンタータの会）代表。仙台オペラ協会芸術監督・演奏部会員代表。宮城県芸術協会会員。日本演奏連盟会員。宮城県芸術選奨新人賞ならびに芸術選奨を受賞。令和5年仙台市市政功労者表彰。

黒尾友美子/ピアノ

3才よりピアノを始める。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ科卒業。卒業後、母校にて、弦楽器伴奏研究員として研鑽を積む。NHK-FM新人のための洋楽オーディションに合格し、ベートーヴェンの《熱情》を演奏し放送される。《土曜リサイタル》《文化庁助成演連コンサート》《文化庁助成演連コンサート》など、妹(東フィルクラリネット)と共演。他、各種アンサンブルピアニストとして、リサイタル、コンクール、録音などに携わっている。皇后陛下の御誕生の祝宴に招かれ、共演者として出演。ピアノを清水敬子、三浦浩、小島隼子、室内楽を二宮和子、アンリエット・ビュイグ=ロジェに師事。

辻端幹彦/テノール

指揮者・合唱指導、テノール、ウィーン・コンツェルヴァトリウム、草津国際音楽祭にて研鑽を積む。音楽を辻秀幸、E.ヘフリガー、R.カルチコフスキー、指揮をF.ブルッカー・辻正行各氏に師事。1997年川崎新人演奏会オーディション合格。2000年・2002年、岡村高生プロデュース「魔笛」オーディションにて「君の声はレジェリッシモだ!」と主役タミーノに抜擢され、以後、「カルメン」「トスカ」「夕鶴」「泣いた赤鬼」等、数多くのオペラで主演。一方、コンサートではモーツァルトのミサ全曲、「ラフマニノフ・晩禱」「第九」「メサイヤ」、バッハ等のテノールソロで好評を博す。

2010年シュベルトブント演奏会に招かれ、ウィーン・シュベルト生家博物館にて「アンサンブルMUSASHI」を率い指揮を執る。

また、同年同市内においてシュベルトを歌う。2012年5月、ルーテル市ヶ谷にて初リサイタル。以後5回のリサイタルを重ねる。2014年フジテレビ「大晦日列島LIVE 景気満開テレビ2014年」にて第九のテノールソロが放映される。

これまで「鎌倉芸術館第九」「小田原音楽フェスティバル合唱団」「佐野第九」「所沢市民第九」

「がん患者さんが歌う第九チャリティコンサート」「サントリー10000人の第九」等の指導に携わる。現在、アンサンブルアマデウス、男声合唱団シリウス、TMSシンガーズ、栄フロイドコール、東京フロイデ合唱団<VT>、MCS(メサイヤコーラルソサイエティ)等の合唱指導に関わる。ヤマハミュージッククリエイト<新宿クラッセ・学芸大学センター>「歌うおとな倶楽部」及び音楽講師。川崎市民オペラ会員。JCDA(日本合唱指揮者協会)会員。

高橋基之/テノール

フレーベル少年合唱団で磯部徹氏よりコーラスの手ほどきをうける。筑波大学混声合唱団を創立、初代団長及び学生指揮者。卒業後は、音楽を山本健二氏、移川澄也氏に師事。

フォーレ作曲のレクイエム、ワークシヨップ・演奏会をはじめとする様々な合唱指導、合唱指揮を行うとともに、宗教音楽、ベートーヴェン交響曲第九番等のソリストを多数務める。平成4年、平成23、27年にソロリサイタルをひらき好評を博す。

また、NHK全国音楽コンクールをはじめ、合唱コンクール、合唱祭の審査員・講師を多数行っている。現在、日本合唱指揮者協会会員、全日本音楽教育研究会高等学校部会顧問、東京都高等学校音楽教育研究会参与。

高橋教之/テノール

フレーベル少年合唱団出身。音楽を移川澄也氏、ジャズボーカルを東郷輝久氏に師事。辻正行氏によるプロ男声合唱団クロスロード・シンガーズに所属していた。

現在は、教会音楽からJ-POPまで幅広く演奏している。日本聖公会東京教区聖歌隊ソリスト。インマヌエル新生教会聖歌隊指揮者。フレーベルOB合唱団団長。合唱団コール・ガブリエル主宰。器楽聖歌隊アンサンブル・ガブリエル座長。



クロスロード・シンガーズ(CRS)

クロスロードという名前は、指揮者であり、音楽監督でもあった故辻正行氏の名前(辻=クロスロード)からきています。CRSは、各自がソリストとしても活躍する日本では数少ないプロ男声合唱団です。

1982年3月、合唱指揮者、故辻正行氏の呼びかけで、TCF室内男声合唱団が発足。その後、様々なジャンルの音楽の交差点(辻)にしたいという願いもこめられ、改名されました。

その実力は高く評価され、故三善晃氏から、「たいへん感動しました。今の感動をそのままっておきたいと思います。」との賛辞をいただいたこともありました。

1984年8月 第1回宝塚国際室内合唱コンクール 男声合唱部門第1位。東京公演、全国各地でのコンサートも数多く、1985年、86年、88年とヨーロッパ各国へ。87年には中国(上海・杭州)、92年にはアメリカ(ハワイ)で海外公演を行いました。

大好評を博した定期演奏会は、1983年5月に上野の東京文化会館で行われたデビューコンサートより、毎回ユニークなテーマを設定して13回まで開催しました。

その後、メンバーそれぞれの活動が年々増えたため、発展的休演となっています。今回は、徐々に、このCRSの有志が集うことになりました。

下地直子/ピアノ

沖縄県出身。琉球大学教育学部音楽科卒業。管楽器、声楽などの伴奏の他、子ども、及び大人のための音楽指導を行っている。現在、フレーベルOB合唱団合唱団フォーレを歌う会等、伴奏者として活躍。PTNA会員、アンサンブルガブリエルメンバー。

